

全原発を停止・廃炉に

3・11東日本大災害は、地震・津波に原発事故が重なり未曾有の被害をもたらした。なかでも、原発事故による放射能汚染については、東北のみならず近隣の都道府県にまで深刻な影響をあたえている。我が国は、広島・長崎原爆から今回で3度目の被爆である。唯一の被爆国として、また地震大国の国民として、54基もの原発建設を許したことを真剣に反省する必要がある。

柏崎原発を例に、社民党が発表した「脱原発アクションプログラム（AP）」による脱原発の道筋を探ってみよう。

世界最大級の柏崎原発 佐渡は危険区域

福島原発の放射能汚染による避難区域は、原発から20Kmまでを「計画的避難区域」、30Kmまでは「緊急時避難準備区域」に指定された。しかし、原子炉爆発当時の風向きによっては、50Kmまで避難区域に指定された箇所や、「ホットスポット」では、80Km位まで汚染区域が広がっている。爆発規模によっては200Kmまで危険区域に含まれる。

一方、柏崎原発は佐渡市との距離こそ50-100Kmだが遮る山脈がないことや、原発の数でも福島4基に対して、柏崎7基と世界最大級であり、大きな影響は避けられない。

このこともあって、私は柏崎原発反対運動に加わってきた。柏崎に何度も出向いてデモにも参加した。当時から、活断層の上にある柏崎原発は問題だと言われていたからだ。今度こそ、佐渡市民はハッキリと「原発ノー」と言う必要がある。

脱原発は省エネと自然エネルギーが中心

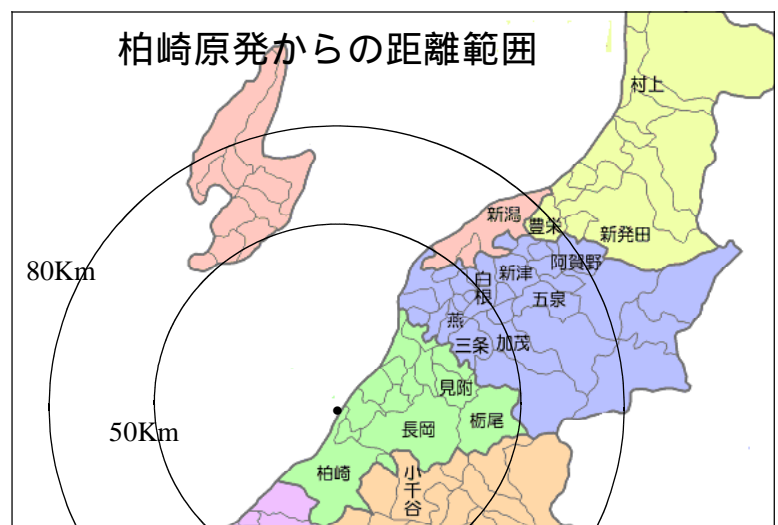
社民党が発表した「脱原発アクションプログラム」を見てみよう。これによると、全ての原発は2020年に停止する。その時の電源構成は、自然エネルギーを30パーセントに引き上げ、省エネで30パーセント削減する内容だ。（右表）

自然エネルギーの主体は太陽光・風力・地熱・水力発電で、現在発電量を3倍強に引き上げる。一方省エネについては、現在の消費量から30パーセント削減する計画である。この数値も決して不可能な数値ではない。現在、計画停電なしで東京電力区域内で既に20パーセント削減が行われている。

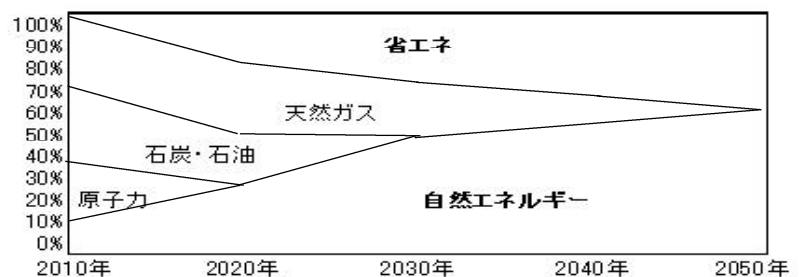
更に計画では「枯渇燃料」である石炭・石油・天然ガスについても2050年までに省エネで40%削減し、自然エネルギーを60%とすることで完全転換が可能だとしている。

ただ、脱原発への政策転換はそんなに簡単ではない筈だ。その要因として「原子力村」といわれる、行政・大学・産業界・電力会社などで作り上げた利権構造や、批判を受け付けない「ムラ体質」が今も存在し、巨額な補助金（柏崎原発：112億円）が、自治体の自立を妨げている現状がある。

一方で、行き詰まりつつある「核のゴミ」問題、破綻した核燃料サイクル計画、そして現実的となった地震・津波の危機である。私たちは、福島原発事故を想定外のこととしてはならない。日本に原発がある限り危険は常にあるからだ。



電源構成の目標軸（社民党：脱原発APから）



	2010年	2020年	2050年
自然エネルギー	9%	30%	60%
原子力	29%	0%	0%
石炭・石油	32%	20%	0%
天然ガス(LNG)	29%	30%	0%
省エネ		30%	40%
人口予測(人)	1.28億人	1.23億人	0.98億人

議会の内・外 こぼれ話

母は昨年9月に亡くなった。意識は最期までしっかりしていたが目を開けなくなり、耳は聞こえたものの舌が動かず言葉が聞き取れない状態だ。亡くなる一週間くらい前「もうだめだ」と言うので「辞世の句でも作るうか」と話したら、「うん」と言ってきた。

入院後、言語が不自由なため、母との会話は「指文字」で行っていた。病室の母は、いつも空に向かって指で字を書いている。恐らく好きな短歌を詠んでいるのであろう、左手で字数を数える仕草を見せていた。私との会話は母の指先に「厚紙」を差し出し「ひらがな」を一字ずつ大きく書き、それを読むことで成立する。そして、作られた母の「最期の歌」が次の短歌だった。

指文字を父さん読んで確認す 我が気持ち通ずうれしき ミサ